

都道府県名：宮城県	市町村名：栗原市
1. 活動名 森林(もり)づくり体験会	
2. 取組の背景、目的 近年、森林は二酸化炭素を吸収することにより地球温暖化対策に貢献することが県民からも注目され、森林整備などの森づくりに関心が寄せられている。 このことから、ボランティアとして森林整備を体験したい県民を募り、伐採跡地への植栽や枝打ちなど森林整備体験等を通して森林の果たす役割の重要性を認識してもらうとともに、都会と農山村との交流を行った。	
3. 実施主体 宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所	
4. 取組の概要 「宮城県こもれびの森・森林科学館」を拠点に、栗原市と宮城県森林インストラクター協会の協力を得て「森林(もり)づくり体験会」を2回開催した。 初夏は、コンテナ苗、少花粉・低花粉スギ苗を市有林に300本植栽した後、森林の働き等の講話とシイタケの植菌作業を行い、植菌した原木を持帰った。秋は、枝打ちとナメコとヒラタケの植菌作業を行い、植菌した原木を持帰った。	
5. 支援事業 地域産業振興事業	
6. 取組等についての成果や課題 初夏・秋の体験会を通じ、県内一円から一般公募により、双方合わせて84名の一般県民が、植栽・枝打ちや植菌作業を体験し、森林を育てることの大変さや森林の働きについて理解を深めた。この体験会は、平成19年度から開催し好評を得ており、森林の整備が地球温暖化対策に結びつくことや、林業・木材産業への理解を得られるこの体験会を、今後も、継続する必要がある。	



低コスト造林の旗手コンテナ苗と、花粉症対策に有効な少・低花粉苗を少し急な斜面(40°)に、小雨の合間を縫い植栽。「ちょっと怖い」、「物足りない。もっと植えたい」と意見はさまざまでも、それぞれに林業の苦労と楽しさを体験されました。



平成20年6月発生の岩手・宮城内陸地震から漸く立ち直り始めた栗原市を応援する意味も込め、県内一円からたくさんの方々が参加しました。

笑顔のキャッチフレーズは「ありがとう栗原」です。



原木への種駒打ち込み作業は、子供達に大人気です。

皆さん熱心に原木の穴あけと種駒打ち込みに挑戦されていました。作成したホダ木は1人2種(ナメコとヒラタケ)ずつ、お持ち帰りいただきました。



秋の体験会も、県内一円から一般公募で参加した44名が枝打ちや植菌作業に挑戦し、森林を育てることの大変さや森林の働きについて理解を深めました。

背景の建物は『宮城県こもれびの森・森林科学館』です。